

人生ハンド仏句

第126号

H. 24. 9. 1
(毎月1日発行)

日蓮聖人の生涯⑦

身延山へ入山

住職 谷川 寛俊

佐渡から帰られた日蓮上人は四月八日は、平左衛門頼綱（現在の総理大臣にあたる人）と面会されました。

頼綱（よつな）が、蒙古がいつ攻めてくるかと尋ねたのに対し、聖人は「今年は必ず来るだろう」と返答されました。そして聖人は「立正安国論」の趣意をよく理解すれば、精神文化の乱れから国家の乱れが起こることは自明の理（ことわり）であり、法華経の精神で政治を行わなければならないことを主張したのです。

しかし、この主張も用いられな

かった為、「三度（みたび）国を諫（い）さめて用ひざれば山林にまじはれ」との故事にならって鎌倉を去り、甲斐国（山梨県）の身延山に入られました。「三度」というのは、文応元年七月十六日の「立正安国論」の献呈、文永八年九月十二日に捕えられた際のお言葉、そして、この四月八日のお言葉のことです。聖人は、この行動を「二度の高名（こうみょう）」と自負されています。

身延山に入られた聖人は、門弟の教育と信徒の教導に当たられた傍ら、数々の述作をされました。その一つが、建治元年（一二七五）の「撰時抄（せんじしょう）」です。

文永十一年（一一七四）の文永の役では、蒙古軍は九州に上陸する前に大風にあつて退散しました。しかし、再び改めて来ることは必至で、幕府は引き続き九州の海岸線に防塁を築き、関東から多くの武士を送りました。

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268

その為、悲しい別離をする親子や妻子の姿がありました。が、こうした揺れ動く人心の中で、法華経信仰を貫き、揺るぎない救いを確かめ続けるようにと、日蓮聖人は「撰時抄」を門下に書き与えたのでした。

建治二年（一二六七）には、恩師道善坊の死去をいたみ「報恩抄」を著されました。狐や亀でさえも受けた恩を忘れずにいるという文章で始まり、真実の報恩は永遠の積尊の救いを困難な時代であっても持ち続けることであることを、仏教の歴史を追いながら解説し、世間の目から見れば日蓮は恩師に背いたように見えるかもしれないが、実は自分が法華経の信仰を末法に弘めた功德は、すべて恩師道善房のもとに集まるのだと述べておられるのです。

縁に生かされ
縁に終える
このいのち



お知らせ

◎秋季お彼岸法要（お講）

・九月二十二日（土）

午前十時半・午後一時

給仕（お講）当番は、立野地区の方々

です。よろしくお願いいたします。

・二十五日（火）端彼岸

午後一時半

「ぼた餅」と「おはぎ」の違いがわかりますか？

去年もお話しましたが、牡丹の季節である春は「ぼた餅」。

萩の季節である秋は「おはぎ」と言うそうです。又、お餅の部分は同じで、あんこが違うそうです。

小豆が採れる秋は、皮が柔らかいので「おはぎ」は粒あん。

皮が固くなる春の「ぼた餅」は、こしあんを使うそうです。

端彼岸のお参りの後にいただく今年の「おはぎ」のお味は如何でしょうか？



◎毎月一日祈禱会

きとうえ

・午前五時から

早朝のお参りは気持ちの良いものです。

ご祈禱を受けて、霊神符（お守り様）を頂きましょう！



◎水子供養会

・毎月十三日 午後一時半

色んな事情で日の目を見られなかった子供達にご供養いたしましょう！

◎唱題行脚

・毎月二十八日 午後一時半より

先月は、まだまだ残暑厳しく、大変でした。でも、丁度中間地点になる早崎さんのお宅で、冷たいお茶を皆さんに振る舞って頂き、生き返った思いでした。有り難うございました。

そして、後半も張り切って回れました。

先月の参加者

谷川寛敬・伊藤宗治・土居可久子・高円富美子・谷川久仁子

ラニ・フラ・ホア



ご案内

今月はフラのイベントが続きます。

お時間が許せば、どうぞお遊びに

いらしてください。

※「アロハ ヘブン 2012！」

・九月十六日（日）

・富山総曲輪のグラウンドプラザ（富山大和の横）で開催されます。私たちは、11時半〜55分。当日駐車場は無料開放です。

※「トヤマ・パフォーミング

アーツ・フェスティバル 2012 in オーバード」

・九月二十二日（土）

・富山芸術文化ホール（オーバード・ホールの大ホール）ラニ・フラ・ホアの出演は、17時55分〜20分間です。

※「まるまる魚津」

・九月二十三日（日）

・ありそドーム 出演予定時間は、14時〜

